

はじめに

新学習指導要領が平成14年4月から完全実施されました。

本校では、その学習指導要領が唱える「生きる力」の育成を目指して、平成9年度から「総合的な学習」の先行実践に取りかかり、そのあり方の研究を続けてまいりました。さらに12年度からは選択教科の拡大にも取り組み始め、13年度には「新学習指導要領完全実施にむけて」をテーマに研究発表をいたしました。

平成14年度からは「21世紀を担う生徒の育成を目指して」という大テーマの下に「評価を見据えた学習指導の探究」をしております。

新指導要領の目指す「生きる力」を育てるには、知識・技能の活用力、学ぶ意欲、思考力、判断力、表現力等の「確かな学力」の育成が肝要です。21世紀を生きる生徒は、確かな学力を身につけ、豊かな自己実現を図らなくてはなりません。

指導の改善と進歩につながる評価、学習状況の気づきと発展につながる評価、学習意欲につながる評価、それらをどの場面でどんな方法で行っていくのか、効果的な活用はいかにあるべきかを検討しつつ授業を進めてきました。

教科の授業時数が削減された中で、いかに学習を充実させていくかという課題が生じている昨今、教科における「授業を中心とした評価」の研究が、教師にとっても生徒にとっても充実した授業の創造となり、確かな学力の育成につながるよう念じております。

平成14年11月22日

金沢大学教育学部附属中学校長

石 村 宇佐一